

第17回「日本鉄道賞」の受賞者について

【海外鉄道特別賞】

◎阿里山森林鐵路

(選考理由)

1914年に台湾南部の森林資源開発のために建設された鉄道であり、その建設にあたっては、日本人技術者が貢献するとともに、現在では、日本の黒部峡谷鉄道及び大井川鉄道と姉妹鉄道となっているわが国にも関係の深い鉄道であります。

三重ループ線と8の字路線によって、2250mの大きな標高差を走行するとともに、急曲線・急勾配用のシェイ型ギア式SLは、現在では世界でもたいへん珍しく、数両が動態保存され、今もイベントなどで使用されています。

1982年の幹線道路開通後は、木材輸送の役割は道路に譲っているものの、歴史的鉄道技術資産を活かすことにより、世界から多数の観光客を集める観光列車として、現在も多くの台湾国民に愛顧されている阿里山森林鐵路に、「海外鉄道特別賞」を授与するものであります。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

「地域と協働した鉄道整備と沿線まちづくり」特別賞】

◎小田急電鉄株式会社・東京都・世田谷区

「複々線で小田急沿線のまち・ひと・暮らしが変わる

～近郊区間の複々線化による抜本的な輸送改善と連続立体交差化による安全・快適なまちづくりの推進～」

(選考理由)

高度経済成長期の1964年、沿線人口の急激な増加による混雑緩和策として、小田急線の複々線化が都市計画決定され、その後、東京都の連続立体交差事業と一体となって50年以上にわたって事業が進められてきました。この事業は沿線のまちづくりと密接に関わることから、構造形式や密集市街地での工事の進め方のほか、まちの魅力向上などの様々な課題や時には難題を乗り越え、鉄道事業者と自治体、地域の関係者の連携・協力があってこそ実現できたプロジェクトと言えます。2018年3月に複々線化が完成し、鉄道の混雑緩和や輸送改善など鉄道の輸送環境だけでなく、踏切解消（39箇所）による道路の交通渋滞緩和など鉄道・道路の安全性・利便性も大きく向上しました。さらに、高架下スペースを有効活用した駅前広場、地下化による鉄道上部の緑道化、住宅地の整備を進めることにより、まちの賑わい創出やより快適なまちへの進化を果たしています。鉄道事業者と地域が連携・協力して鉄道の整備とまちづくりを効果的に進めた取組みに対し、「地域と協働した鉄道整備と沿線まちづくり」特別賞を授与します。



複々線化完成を祝うテープカット



複々線化と立体化が完成した区間



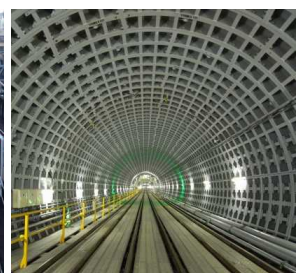
立体化による踏切解消



事業進捗にあわせた駅周辺の整備



密集市街地での大規模な工事



在来線直下での2層トンネル構築

【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

「アートで新たな鉄道の魅力創造」特別賞】

◎杉本聖奈 & Nan-na 工房

「人と鉄道が織りなす世界を表現し、鉄道と利用者に活力を与える創作活動」

(選考理由)

かつてより鉄道車両の魅力はデザインやアートの力によっても記録され、また広められてきました。写真、絵画、オブジェなど鉄道車両に関するアートは多くありますが、いずれも作品の作り手の個性を交えながら見る側に多くのものを伝え、今後こうした視覚的訴求は一層、波及すると考えられます。

日本各地の鉄道に乗車し、鉄道の絵を描き続けている杉本聖奈さんの作品は、車両とともに車内の乗客の姿をとらえ、それぞれの表情を丹念に描き込まれ、様々な人が乗車する様子からは鉄道に乗る楽しさが伝わってきます。「鉄道の表情は乗客がつくる」という一貫したコンセプトのもと、オリジナルの視点で制作された数々の作品と創作活動は多くの人々に鉄道の新たな魅力に気付かせ、伝えるものであり、ここに「アートで新たな鉄道の魅力創造」特別賞を授与いたします。

